



千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄冠) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.1.28 No. 3339

❖ 大須賀昭男さん追悼、 ❖ 91・3ダイ改-業務移管攻撃粉碎! 1・31 総決起集会に結集を

いざ反撃へ

JR当局は、三月ダイ改について、津田沼運転区の大規模な業務移管をはじめ合理化・労働強化、運転保安の無視と空港アークセスのためにのみに、県内の鉄道輸送を犠牲にするという断じて許すことの出来ない攻撃に出てきた。

千葉支社管内の列車キロ増が約六九〇〇キロにもかかわらず、実際の担当乗務キロでは約三四四キロの減となっている。

これは、だれが見てもJR総連革マルと結託した動労千葉破壊そのものである。全組合員は、怒りも新たにストライキも辞さず反撃にうって出る決意をうち固めようではないか。

さらに、船橋市議選・中江選挙闘争の火蓋が切られている。こうした、九一年春季闘争勝利にむけての全組合員の総決起体制を築きあげよう。

故大須賀昭男氏の志を受け継ぎ、心からの追悼と、悲しみを怒りに変えて、反転攻勢に転じよう。その為にも、一・三一集会に大結集しようではないか。全支部から全力結集を。

大須賀昭男氏追悼

悲しみを怒りにかえて

成田支部前書記長・大須賀昭男氏が、一九九一年一月十四日、クモ膜下出血で逝去され、早いもので半月が過ぎ去った。

しかし、われわれの悲しみはうすれない。一月十四日、この日をわれわれは決して忘れないだろう。

大須賀氏は、昨年十二月三十一日未明、自宅でおれ、成田日赤に入院し、家族・友人、そして医師の懸命の治療・看病に支えられ回復の方向にむかっていたかに見えた。だが、本年一月十三日、容体が急変し、四十七歳の若さで帰らぬ人となってしまった。

最愛の夫に先立たれた夫と三人のご子息の心情は察するにあまりある。

われわれは、御遺族の方々が一日も早くこの悲しみから立ち上がることを願い、励ましながら、大須賀氏が

残した動労千葉魂を引き継ぎ、新たな決意で九一年春季闘争に立ちあがらなければならぬ。大須賀氏もおそらくそれを望んでいるにちがいない。

割・民営化攻撃に反対する闘いの中で、八六年二月十五日のストライキに対する指導責任をとらされ、不当にも解雇された。

大須賀昭男氏は、一九六三年国鉄千葉鉄道管理局佐倉機関区に就職し、一九六四年成田管理所機関助手、六九年機関士、七九年十一月電車運転士に昇職、その誠実な人柄が仲間から信頼され、二十代で組合指導者としての道を歩んだ。

その後、本部争議団の先頭で原職奪還闘争に取り組むなかで、動労千葉の財政基盤確立のために、新会社を設立し、これからという時に突然他界された。

特に、七五年、動労千葉地本青年部長に選出され、動労革マル松崎一派からの想像を絶する攻撃にもひるまず、良心的組合員の願いと期待を一身に背負いながら、堂々とその任務を貫徹し、八一年に成田支部書記長に就任、常に闘いの最先頭を担い続けた。

その後、本部争議団の先頭で原職奪還闘争に取り組むなかで、動労千葉の財政基盤確立のために、新会社を設立し、これからという時に突然他界された。

われわれは、悲しみを怒りに変えて、断固闘い続けることを、ここに決意する。大須賀さん、安らかに眠りください。

われわれは、悲しみを怒りに変えて、断固闘い続けることを、ここに決意する。大須賀さん、安らかに眠りください。

家族会連続講座

二月三日(日) 十一時から
千葉市社会センターにて

動労千葉労働学校

二月九日(土) 十三時から
千葉市文化センター・9Fにて